

おづのふくし

発行 小津学区
社会福祉協議会
題字 会長
沢井進一

「ふれあいと福祉の心を育てるつどい」開催報告

金森山柿自治会 高田 三千郎

「小津学区地域福祉活動計画」の一環として、小津学区社会福祉協議会主催の第 5 回「ふれあいと福祉の心を育てるつどい」が 12 月 13 日(日)に小津会館において開催され、主催者側スタッフの一員として参加させていただきました。

当イベントは「小津学区地域福祉活動計画」の基本目標であります、小津学区民がお互いにくらしを支えるために、福祉の心を育み住民主体の組織体制の確立を目指すことを目的に毎年開催されているものです。

「青人草」さんの歌とマジックショーで始まり、フォトアート・ニュースポーツ・ミニミニ模擬店・遊びの広場等計 8 つのコーナーが設けられ、それぞれにおいて参加いただいた方々に十分楽しんでいただき、終始笑顔あふれるイベントとなりました。

今回のイベント開催において印象に残ったことは、まず前回に比べて参加人数が大幅に増加したことです。特に前回には、ほとんどなかった中学生の参加が見られました。また親子、子ども同士や親同士また祖父母と孫等同世代のみならず世代を越えての会話や交流も多く見られました。参加いただいた方にはスマートフォンやパソコンとはまた違った、人と人のつながり方やふれあいの楽しさ・素晴らしさを感じていただいたのではないのでしょうか。

開催イベントの大部分が小津会館の中で行われてやや手狭な感がありましたが、逆に参加いただいた方々の顔や様子をうかがうことができ、メリットもあったと感じています。

少子高齢化問題がますます深刻化する一方、行政の支援にも限界が見えることから、ご近所や自治会等のコミュニティにおける相互扶助の体制作りが不可欠な状況にあります。

また、従来のお金や物の豊かさから心の豊かさが求められる時代でもあります。このことから当イベント開催は意義深いものと思います。

小津学区の住民があたたかい心を持ってお互いに助け合う事ができる、そのような小津学区が実現できることを願っています。



在宅介護者のつどいに参加して



山賀自治会 川本 豊子

去る 2 月 6 日土曜日、パインツリーたまがわにて「小津学区在宅介護者のつどい」が開催されました。おいしい料理に、おしゃべり、楽しいマジックや綺麗なフルートの音色、素敵な詩の朗読。

参加者のみなさんに、ほんのひと時でも日頃の介護の疲れを忘れて、ゆっくりと楽しい時間を過ごして頂けたようで、「また、次回も参加します」との声を聞いて、スタッフとして嬉しく思い、このような事業を開催することの大切さを実感しました。



みんなが主役の地域づくり

仕事帰りの電車の中で、ふと産み育てること、死にゆくこと、老いや障害とともに生きるという自然の営みについて日本の社会は何故これほどまでに忘れてしまったのだろうかと思うことがあります。

GNH 政策に魅力を感じ、こどもの頃から住んでみたかったヒマラヤ山脈にあるブータン王国に 5 年前の 2 月に保健活動をするために赴任しました。村に巡回診療に行くのに片道 8 時間の山道を歩き雨が降れば土砂が崩れ、道が変わり、同僚たちと手をつないで川を渡ったこともありました。

医療事情は厳しくまだまだ乳幼児死亡率も高い国です。そんな被援助国が 5 年前の 3 月 11 日、東日本大震災の知らせを受け、国王をはじめとする政府関係者・僧侶たちが一同に集まり日本のために祈りを捧げ寄付をしてくれました。また村を歩いていても赴任直後の私に次々に「ひろみの故郷は大丈夫か」と祈りを捧げて、寄付をしてくれました。日本人である私は他の国の出来事や自国の未来にどこまで思いを寄せ行動できているのだろうかと自問自答し、これほどまでに自分自身が日本人であることを意識し感動したことはありませんでした。

日本が先進国と呼ばれるようになり 1 世紀も過ぎてはいません。「SHARE IS LOVING」という言葉はブータンの仲間から教わった言葉です。ブータンには児童養護施設も老人ホームもなく、医師も不足しています。高度医療ありません。それでも社会は成り立ちます。「周回遅れは最先端」介護も育児も誰かが抱え込まないといけない状況ではないのです。高齢者には大切な役割があります。認知症の診断もできず、徘徊をしても道端で排泄をしてもそれは普通の出来事なのです。

日本人の現場力、勤勉性、計画性、繊細さに加えて、命への寛容性と自然への敬意を取り戻すことが出来ればきっと日本は少子高齢化社会を乗り切ることができ、未来は明るくなると思います。春は出会いと別れの季節、小津学区の担当をさせていただけたことに感謝を込めて。

* **GNH**: 国民総幸福量

(保健師 瀬川 裕美)



左義長祭り

森川原自治会 森田 廣

本年は1月11日(月)祝日に神事が執り行われました。

森川原の自治会でも前年より、左義長の行事が復活をしました。

左義長は、正月に飾り付けた、門松や、注連飾り(しめかざり)によって出迎えた歳神を、焼くことによって炎と共に見送る意味があるようで、無病息災を願うとともに、書初めを焼いた時に炎が高く上がると字が上達すると言われていています。

自治会の活動の一環として、住民のつどえる機会を持つ意味からも開催にこぎつける運びとなり、準備作業(竹、わら等)、やぐらの組み立てに多くの役員の方々及びボランティアの皆様にご協力をいただきました。

そして、皆さんが注目をされる中、点火がされると、どよめきの様な声が上がりました。

皆さんの願いが届くように大きな炎は夜空高く高く舞い上がりました。

そのほかには、参加者の皆様に自治会福祉部会役員により、手づくりの豚汁が振る舞われ、今年も前年と同様に多くの参加があり、楽しい左義長の無病息災を願う行事と、つどえる楽しいひと時を過ごすことができました。



「あいさつ運動標語」



「あいさつ運動」をすすめるための標語募集にご協力ありがとうございました。

大人の部 21 点、児童の部 3 点の応募がありました。

最優秀賞・優秀賞が、決定しましたので、お知らせいたします。

【大人の部】

☆最優秀賞

笑顔であいさつ 地域をつなぐ 大事なバトン

(敬称略)
三宅稲葉自治会 八木 宏子

☆優秀賞

あいさつは 心をつなぐ レインボー

金森自治会 浦谷 秀子

挨拶で 増々広がる 笑顔の輪

大林自治会 井上ながこ

「おはよう」を笑顔にのせて 今日もしあわせ

杉江自治会 田中 治男

【児童の部】

☆優秀賞

こんにちは その一言が うれしいな

森川原自治会 小嶋 彩月
(小3)

受賞された皆様おめでとうございます。



小津学区社会福祉協議会

避難行動要支援者登録制度に
登録しましょう
～深めよう 地域の絆 支え合い～

1.避難行動要支援者登録制度とは
本人からの登録と同意に基づいて避難支援プランを作成し、その情報を自治会(自主防災組織)や民生委員児童委員などと共有することで、地域の助け合い(共助)による避難支援などに役立てるものです。



2.対象となる避難行動要支援者とは
災害が発生した時などに自力で避難できない、また家族などの支援を受けることが困難で避難にあたって何らかの支援が必要な在宅で生活されている方々を対象とします。



3.登録の方法

○市役所健康福祉政策課に「守山市避難行動要支援者避難支援プラン登録申請書」を提出してください。
○登録申請書などは、すこやかセンター、各会館にも設置しています。



4.お問い合わせ先

守山市健康福祉部 健康福祉政策課
電話 077(582)1123
FAX 077(582)1138
E-mail fukushiseisaku@city.moriyama.lg.jp

まもっている輪

にいら
よん



掲 示 板

★ 初めてのクリスマス会 ★



昨年末、森川原自治会館は、大きなクリスマスツリーにピカピカのイルミネーション、そして心弾む♪ジングルベル♪等々、クリスマスムード一色に包まれました。

森川原の子ども達、0歳から小学生までの17名と家族の方々と自治会スタッフが集い、自治会主催による、初めてのクリスマス会が開催されました。

子ども一人ひとりに手渡された手づくりの招待状に手づくりのクリスマスケーキ、カレーと自治会のおっちゃん、おばちゃん達の心がこもった温かいおもてなしが満載!!友達やおっちゃん、おばちゃんと一緒に遊び、歓声をあげる子ども達の姿、日頃は殆ど出会う機会のないお父さん、お母さん達が「はじめまして」から始まり、徐々に打ち解けおしゃべりする姿に、同じ森川原に住んでいるという親しみを感じながら、共に過ごすことの楽しさを味わうことができた一日となりました。これからも、地域で育てるの意味を考えながら、地域の人とふれあい、様々な体験ができる環境づくりを通して、森川原に愛着がもてる子ども(人)に育ってくれることを願っています。 森川原自治会 民生委員児童委員 三品 悦子

